



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

第 18 号

令和四年 十一月 一日 発行
発行所 佐渡市新穂長畝一六三〇東光院中 真言宗豊山派佐渡宗務支所

発行責任者
編集委員長

加藤 龍久
池田 英雅

「じつと我慢から よし動くぞ。」への方向転換

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長

支所下十三番 東光院 住職 加藤 龍久

令和三年四月から佐渡宗務支所長の重責をおおせつかり、その責任を十分に果たせないまま二年目になりました。武田信玄の言葉を引用すれば、令和三年は山のようにじつと動かず、令和四年は動きの速いこと風の如く。こんな心境でコロナ禍の二年を過ごしてきました。コロナ感染症の拡大によって、動きたいのにじつと我慢する日々は忍耐を必要としました。今年、世の中が徐々に動き出し、佐渡支所も球が弾けたように動き出しました。

コロナ禍による制限がある中でも菩提寺の護持発展のために、並びに佐渡支所の事業推進のために檀信徒の皆様のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く感謝を申し上げます。

令和四年度前期、佐渡支所では教師大会（僧侶の総会）、檀信徒総代会、僧侶研修会を開催。宗務所・本山では全国檀信徒協議会（慶喜総代、羽二生 裕様が参加）、全国布教師大会等の諸事業を無事に開催することができました。

さて、令和五年（二〇二三）は宗祖弘法大師御生誕一二五〇年の勝縁の年に当たります。佐渡支所では令和五年六月初旬に二泊三日で総本山を参拝いたします。人の一生において幾度も長谷寺・高野山をお参りする機会はないと思

われます。まだ一度もお参りしたことのない貴方、

是非一度お参りしてみませんか。

安心・安全に十分配慮した団体参拝にいたします。



第七十四次全国檀信徒総代協議会に参加して

支所下二番 慶宮寺 総代 羽二生 裕



新緑のまばゆい六月七日・八日の二日間、奈良県橿原市大和ローヤルホテル及び、総本山長谷寺において開催された標記総代協議会に出席して来ました。全国から豊山派檀信徒総代三十四名（新潟県からは私を含め三名）が参集しました。今回、コロナ禍もあり事前にPCR検査及び、各二日間共に抗原検査を行ってからの参加となりました。

一日目は、研修会と協議会がホテルにて行われました。研修会の講師は、佐渡ご出身の大正大学前学長で大日寺住職の大塚慈伸様でした。

『弘法大師のおこころと現代社会』という演題でご講演をいただきました。お大師様の生きていた時代は富士山の噴火や大飢饉、天変地異（地震や津波、台風、旱（ひでり）、疫病の流行 など）多々あり、今日の度重なる自然災害と相通するものがあるというお話でした。さらに、今日的な社会課題として

- ① 少子高齢化に伴うコミュニティ維持の課題
- ② 寺院離れと寺院消滅の課題
- ③ 倫理道徳の希薄化、社会不安など、私達檀信徒が如何に解決し生きていくか。

大塚様は、今こそお大師様のおこころを現代社会へ活かしていくこととして①総代（お檀家様）と僧侶の自己変革（共生意識と他者を想う心）②弘法大師のおこころを現代的に読み解く（地域に根ざした現代的なアプローチで独自の実践が必要）というお話をいただきました。

協議会では、総本山長谷寺の今年度の施策方針説明や各地区からの現状と課題についての意見交換が行われました。

二日目は、総本山長谷寺に移動し、朝の清々しい風の吹く長谷寺本堂にて、浅井侃雄管長様が導師を務める『特別法要』が総勢五十六名の檀信徒・僧侶の皆様と共に、厳かな中で行われました。

とても貴重な体験をさせていただきました。心より感謝申し上げます、この度の報告に代えさせていただきます。

仏教婦人会 会長に就任して

支所下八十七番 照光寺 奥野 洋子

令和四年四月より、仏教婦人会佐渡支部会長を拝命いたしました。令和二年新型コロナウイルス感染症が、世界規模で発生してからも三年目となり、佐渡市も四月上旬感染力の強いオミクロン株が急増し、不安な日々を過ごしてまいりました。しかし、感染症対策やワクチン接種が進み、ようやく落ち着きはじめている状況に光が見えてきたように思います。総会や研修会等見合わせておりましたが、少しずつ再開できるのではと思っています。仏教婦人会佐渡支部結成は昭和四十八年と聞きました。義母亡きあと入会した私です。まだまだ分からないことが多くあります。会員数の減少など様々な問題もありますが、皆様と力を合わせて会の継続発展につなげていければと思っています。

真言宗豊山派 佐渡支所 令和5年(2023)総本山参拝の旅 総登嶺 総本山長谷寺と高野山

旅行日 令和5年6月5日(月)～7日(水)

旅行代金 お1人 110,000円(申込金 含む)

募集人数 50名 ※

締め切り 令和5年(2023)1月末日(1次)
3月末日(2次)

申込金 10,000円(申込書と一緒に納めてください)

島内各地 送迎バスあり

※コロナ感染の状況に応じて、募集人数を変更する場合があります。

◎詳しくは、各菩提寺に配布のパンフレットをご覧ください。

お申込みをお待ちしております。



第四十四回 青少年研修会

仏教青年会 会長 支所下五番 曼荼羅寺 住職 渡部 成樹

佐渡市内の新型コロナウイルス感染症発生状況から第四十四回青少年研修会は、仏青会員の各自坊で開催することに相成りました。

今回の研修会は、「お寺で写仏体験をしよう!」をテーマとして、子どもからお寄りまで幅広い世代の方々に気軽に参加して楽しんでもらえる内容としました。(写仏とは、仏さまを写して描く、仏画・絵のこと) また、お寺の安らぐ空間で写仏体験をすることにより、コロナ禍による不安やストレスを少しでも解消することがねらいであります。

さて、令和四年七月三十日(土)に会長の自坊、曼荼羅寺において、大人二名と子ども二名、計四名で写仏体験を行いました。

写仏をしている時の、みんなの顔は微笑み、まるで描いている仏さまのように見えました。

合掌



子どもの感想

「写仏は初めてだったけど、とても楽しかったです。」



真言宗 お寺のQ&A

Q、お彼岸やお盆、仏事（追善供養など）の時に、お団子をお供えするのはなぜですか？

A、お団子は仏事には欠かせないお供えの一つです。

お供えする（お彼岸、お盆など）理由は、仏様・ご先祖様への「敬意」や「感謝」を表し「お迎えする」意味があるといわれています。

お葬式の時のお団子は特大二十個盛り一対です。故人が極楽浄土への旅の途中で空腹を癒やす為や、空腹で喘ぐ亡者に団子を分け与えて徳を積み、極楽浄土へ行けるようにといわれています。

お葬式と仏事（追善供養など）では、お団子の向きを替えてお供えます。これは日常と非日常を区別してのもので、

「屏風を逆さまに立てる」「ご飯に箸を立てる」等が非日常であるお葬式に見られる風習です。

なぜ、お団子やお餅（正月のお供え、四十九の餅）なのでしょう？ ケーキじゃダメなのでしょう？

仏様やご先祖様・故人を大事にする気持ちを表すため日本人が最も大事にしてきたお米（うるち米・もち米）を粉にしてお団子をお供えし、より重要な日には、お餅を作ってお供えしてきたのです。

近頃ではビニールに包まれた砂糖団子をお供えするご家庭が増えました。「お砂糖」もまた戦時中を思い返せば貴重品であることが分かります。仏様、ご先祖様にお供えするお団子やお餅を親・子・孫と一緒に作る時間は「ご先祖様に感謝する」

「仏心を育てる」ための大切な時間にしたものです。



（諸説あります）

豊山派佐渡支所の寺院を訪ねる

佐渡宗務支所には五十九カ寺の寺院があり、ご住職様は四十人おられます。島内の各寺院は、その地域に深く根ざしており、数百年にもわたってお檀家様やご住職のご尽力によって今日に至っております。

佐渡支所の役員（私たち）は支所内の各寺院を訪ねて、これまでのお檀家様、ご住職様のご尽力やご苦勞をお聞きし、また、今抱えている諸問題（地域や寺院の在り方など）や、それに立ち向かい精根傾けておられることをお聞きしたいのです。その貴重なお話の中から、将来への展望が開けると考えています。

両津浦川 文殊院（支所下七十四番）を訪ねて

両津から加茂線を走り平松を過ぎ大きくカーブすると、いきなり眼前に文殊院の大伽藍が飛び込んできます。高台に建つ本堂の柱の朱色が、空と海に映え威風堂々とした佇まいです。五十三段の石段を登って本堂正面に立つと視界がワイドに広がり、両津湾が一望できます。

ご住職様の中浜照文師が出迎えてくださいました。文殊院は本堂内の荘厳からもこの加茂地区全域の中心的な寺院であることを窺い知ることができます。中浜照堂師、照一師、照文師が三代に渡ってこの地域に深く根を下ろし、お檀家様は元より、地域住民と苦樂を共にしてこられたことにより地域の人々にとつて欠かせない精神的な拠り所になっているのだらうと、ご住職様のお話の中から感じました。

ご住職様に「普段心がけていらっしゃることは何ですか。」とお尋ねすると、「はい。はい。と受容することかな。」とお答えになりました。さらにお寺の運営で大事にしていることをお尋ねしました。

「これまで永年に渡って継続してきた事柄を弛まず続けていくこと。世の中が急速に変化し、お寺を取り巻く環境が大きく変わってきました。またここ数年はコロナ感染症拡大で法事や葬儀が大きく変容する中で、これまで永年継続してきた事柄を熟考し、その事の意義を再確認した上で、継続していく事。」とおっしゃった。ご住職様の言葉を心に刻んでお寺を後にしました。

寺院探訪

佐渡宗務支所下六十一番

石清水山 正覚寺

いわしみずさん しょうがくじ



山門より本堂を望む

佐渡市下久知 住職 大場 憲栄

当寺は、諸説あるものの、室町時代・享徳元（一四五二）年の開基とされています。往古より、久知郷の地頭久知本間氏が支配する久知郷の総鎮守久知八幡宮とのつながりが深く、旧地名経塚に並び建っています。江戸期には久知八幡宮の別当寺院を務め、佐渡市無形民俗文化財に指定される久知八幡宮祭礼の主座を務めました。

寺名について、寺伝では開山時、経塚山 観音院 長福寺と称しましたが、その後、観音院を阿弥陀院に改め、享保二（二七二七）年現在の石清水山 正覚寺と改めました。当寺は、元禄書上に記載があるように、慶喜寺（畑野）の末寺六坊の一つでした。

本尊は、金剛界大日如来で、脇侍仏は聖観世音菩薩・不動明王が立像として安置されています。脇侍仏の聖観世音菩薩は、昭和十三年六月十三日付の東京日日新聞紙上に、『藤原時代（平安後期の傑作） 国宝級の仏像発見』の見出しで紹介されたことがあります。記事では当時の泉郷土博物館齋藤館長が、佐渡へ調査に来た際、正覚寺で発見したことが書かれています。聖観世音菩薩の由来は、平安時代に九州熊本北部（現在の菊池市周辺）を支配していた菊池氏の領地から、弥勒なるものが佐渡へ移住した折に所持した仏像で、文化十一（二八一四）年当寺へ奉納したと記録されています。

隣接する久知八幡宮の境内に、名水として名高い「八幡樋の木清水（はちまんかやのきしみず）」があります。かつては、この清水より百メートルほどの距離を竹でつないで配管し当寺へ導水され、生活用水や寺田用水として利用されていましたが、現在は本堂前の手水舎に注がれています。

以前、新潟日報で佐渡八十八ヶ所霊場を紹介する『お遍路の旅』が連載されましたが、六十九番札所・正覚寺のコーナーで、平成二十九年七月より月替わりで「正覚寺テレホン法話」を行っていたことが掲載されました。

テレホン法話の電話番号は、

☎025915817007です。



脇侍・聖観世音菩薩

佐渡宗務支所 後期 事業計画

- ・新潟県布教師会総会・研修会 十月十三日(木)
 - ・三支所交流会 中止
 - ・北関東・信越・佐渡地区 支所長事務研修会 十二月二十日(火)二十一日(水)
 - ・教務部認可講習所 中止
 - ・宗立同和推進・人権擁護講習会 十一月二十九日 宗務所
 - ・教師勉強会(1) 十月
 - ・新年会 未定
 - ・教師勉強会(2) 十二月
 - ・各種布教・ボランティア活動 実施予定
 - ・智豊合同会議(四役) 未定
 - ・智豊合同研修会 二月
 - ・弘法大師御生誕千二百五十年総登嶺の募集 適宜
 - ・佐渡宗務支所ホームページの継続 適宜
 - ・支所だより(18号)の発行 十一月一日(火)
 - ・佐渡宗務支所下寺院訪問 適宜
 - ・布教ポスター制作
- ご支援の程、よろしく願っています。

編集後記

今年もコロナ禍が続き、支所下寺院の御住職様方におかれましても、行事や法事に際し多くの御苦労が有った事とお察し申し上げます。当支所活動に於きましても、多くの予定を中止せざるを得ない状況になりました。その中で、檀信徒総代会と教師研修会が皆様のご協力を得て開催出来ました事、お礼申し上げます。又、支所だより十八号の発行にあたりお忙しい中、寄稿戴きました皆様にお礼申し上げます。

【お願い】 教師各位、檀信徒各位へ

支所だよりに、「この様な事を載せて欲しい」と言う要望が有りましたら、ご一報いただければ幸いです。